

# 9人の女神と可愛い王子

nam@zuter

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

勉強ができて、音楽の才能がある彼j…いや彼の名前は

しろぼたけ  
白畑 加連

かれん  
男の娘である

彼は自分の辛い過去を乗り越えてμ sと頑張つて行けるのか

# 目次

登場人物紹介	1
第一章	
一歩目 始まり	7



# 登場人物紹介

しろばたけ かれん  
白畑 加連

高校2年生

外見は肩までである水色の髪にピンを留めていて完全に女子 フランス人の祖母がいてクォーター

色んな才能があるが、凄く人見知りで恥ずかしがり屋(優しくて鈍感)(性格もほぼ女子)

勉強は上の上 運動の方は卓球好きでかなり強い ダンスも一応できる 他はあんまり

音楽も得意でどの楽器も演奏できるし歌も上手い

その影響で中学生から既存の曲を歌ったり、作曲したりした動画をあげている

そこでの名前は「レンカ」でかなり人気となっている 顔出しはしていない

過去に遭った出来事のせいで、恐怖症に近い強烈なトラウマをもっている

人間不信(姉妹以外に対して)(ネットでは普通)

好きなものは、甘いものと最後まで頑張る人

嫌いなものは、苦いものと誰かを困らせたり傷付けるやつ

めつたに怒らないが、怒ると口調が変わり、喧嘩が強くなる ふだんは強くない

しかもめちやくちや怒った時の記憶が曖昧で、怒っていたという記憶しかない

しかし他人が酷い目にあつたら怒れるが、自分が酷い目にあつたら怒れない

穂乃果、ことり、海未とは幼なじみで、凜、花陽とは中学生の時仲が良かった後輩

しろばたけ しほ 夏菜 なな  
白畑

加連の義理の妹 音ノ木坂学院の高校1年生

外見は黒髪のショート

完全な(Loveの方の)ブラコンで加連に愛情表現してるが加連に気付かれていな

い

元気が良くて運動は卓球以外加連に勝っている

夏菜曰く「頭使いたくない」らしい

勉強は下の上

空手を習得している

白畑しろばたけ 鈴木すずか

加連の義理の姉 音ノ木坂学院の高校3年生

外見は黒髪のロング

妹とは違う方向性のブラコン（Loveの方）

何事にも冷静で落ち着いている

パソコンを使う事や絵を描くのが得意

勉強は上の中

合気道を一応習得している

仕事の都合で3人の両親は東京にすんでいない

つまり3人暮らし

夫婦仲は良好

3人の才能のランキング

勉強部門

1位 加連

2位 鈴海

3位 夏菜

歌部門

1位 加連

2位 夏菜

2位 鈴海

そうたいして差はなく2位は曲調により左右される

1位はチート級

ダンス部門

1位 夏菜

2位 加連

3位 鈴海

喧嘩の強さ部門

1位 ガチギレ加連（姉妹の見解）



2位 鈴海

3位 夏菜

4位 通常加連

姉妹に対して加連は怒ったことがない

この下雑談タイム

加 「こうしてみると夏菜の立場がちよつと…」

鈴 「まあ一番年下だし夏菜だし」

夏 「お姉ちゃん酷くない!？」

鈴 「加連も化け物だけどね」

加 「なりたくてなったわけじゃないよお…」

夏 「お兄ちゃんその他の人の前で言ったら反感買うよ」

加 「じゃあどうやって言えば良いの!？」

夏 「まあお兄ちゃんがすごいのは否定しないけど」

加 「二人だつてすごいよ、僕にはできない事できるし、あと僕みたいななんちゃつて

女子じゃなくて二人とも可愛いもん」

夏 「いつもいきなり！／＼」

鈴 「っ／＼」

加 「どうしたの二人とも？」

# 第一章

## 一歩目 始まり

加「こんな風かな」

現在、僕は次投稿する予定の曲の打ち込みをしている。

歌ってみたやオリジナル曲を投稿して今年で5年目だ。

僕のネットでの名前である「レンカ」は性別を明かした事はないけど、ネットの反応を見ると完全に女として扱われている。

まあ、もともと僕は声高いしね。たとえ顔出ししても信じてもらえないだろうし。

肩まである髪にピンつけてるから男と絶対に思われない。

今は絶賛春休み中である。

かといって僕には行く高校もないけど。

加「そういえば、まだ朝食食べてなかったな」

鈴「だったら早く食べに来なさい」

加「いつの間に僕の部屋に!？」

鈴「40秒ぐらい前よ。さっきから何回も朝食できたって呼んでるんだけど」

気付かなかった…。ヘッドフォン付けてると人の声はほんとに聞こえない。

加「ごめん！すぐ行くよ！」

鈴「焦らなくて良いわよー」

僕は曲のデータを保存してリビングに向かった

夏「あつ、お兄ちゃんおはよー！」

加「おはよう夏菜」

鈴「さあ早く食べましょう」

「「「いただきます」」」

今日は目玉焼きにポテトサラダに…うん、美味しそうだ。

夏「そういえばお兄ちゃん曲は完成した？」

加「あとちょっとだよ」

夏「お兄ちゃんの曲は良い曲ばっかだから今回も楽しみ！」

鈴「私のクラスの人も何人か気に入ってたわよ」

加「そう言われると照れるな…」

夏・鈴（可愛い）

加「夏菜は今年から高校生だね」

夏「うん！お姉ちゃんと一緒のところ行ったの！」

鈴「ちゃんと勉強するのよ」

夏「それは…まあ…。」

夏「でもお兄ちゃんも同じところだったら良いのになー」  
いやあそこ女子校なんだけど…

鈴「無理よ、音ノ木坂は女子校だから」

夏「お兄ちゃん可愛いから行けると思うんだけどなー」

加「あはは…」

ピロロロ、ピロロロ、

加「つと電話だ、僕がでるよ」

でも珍しいな。家の電話にかかるとは。

加「もしもし」

？「加連君ね」

加「えつと…」

？「私よ、南ことりの母よ」

加「えつ…あつ！お久しぶりです！」

南母「ええ、お久しぶり」

加「それで、あの…どうされたんですか」

南母「単刀直入に言うわ、音ノ木坂学院に編入してくれないかしら」

加「えっ…」

南母「私そこで理事長やってね、共学にするためのテスト生になってほしいの、両親にはもう話を通したわ」

加「ええええええええ!!」

夏・鈴「!?!」

南母「ちなみに君の幼なじみ三人もそこにいるわよ」

穂乃果、ことり、海未…昔たくさん一緒にあそんだな…

南母「それでやってくれるかしら」

加「う…くん…」

正直今の高校にはもういきたくないけど…

南母「あつこれは音ノ木坂のためつてもあるけど…」

加「?」

南母「きみが変わるためでもあるからね」

加「ーッ!?!」

僕が変わるため?

この人まさか僕の過去を知って…

南母「まあ強制はしないけどどうする？」

加「…や…やります！」

南母「そう…良かったわ」

南母「それで入学式の日…」

---

ガチャ

…恐いけど頑張ろう

夏「どしたのお兄ちゃん？」

加「…音ノ木坂に編入することになった」

夏・鈴「えっ」

加「共学にするためのテスト生として」

夏「やったー！」

鈴「…よしっ」グッ

加「そんなにうれしいことなの？」

夏・鈴「もちろん」

加「即答!？」

ん？ちよつと待って？

僕…もとい「レンカ」は女子高校生が1番ファン多かつたしきつきのお姉ちゃんの言葉から考えると…

…バレないようにしないと…

夜、パソコンで完成に近い曲を仕上げていると、誰かがドアをノックした。

加「どうぞ」

鈴「お邪魔するわ」

加「どうしたのお姉ちゃん」

鈴「加連…あなた大丈夫？」

加「…自分を変えるためだから頑張るよ」

鈴「そう…辛かったら言うのよ」

加「…分かった」